

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社フィールズ

②施設・事業所情報

名称：明日葉保育園駒岡園	種別：認可保育所	
代表者氏名：菅原 友紀子	定員（利用人数）：60名 （利用人数 61名）	
所在地：〒230-0071 横浜市鶴見区駒岡5-2-22		
TEL：045-834-7440		
ホームページ：https://www.ashita-ba.jp/hoiku/komaoka/		
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2014年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社あしたばマインド		
職員数	常勤職員： 12名 非常勤職員： 14名	
専門職員	（専門職の名称） 名	
	保育士:22名	栄養士:1名
	看護師:1名	調理師:3名
施設・設備の概要	（居室数）保育室：6室	
	（設備等）鉄骨造2階建て、 トイレ：9、調理室・厨房 1、事務室 1、教材室 1	

③理念・基本方針

◆保育理念

「子どもの明日を育み、今日を支える」

明日葉の花言葉は 「旺盛な活動力」

私たちは、子どもが毎日を豊かにすごせる保育を通じて、

明日をたくましく生きる力を育みたいと考えます。

そして、子どものすこやかな成長を願うご家庭や地域社会との

コミュニケーションを大切にして、よりよい今日をサポートします。

◆保育目標

- 自分も人も尊重できる子ども
- 自分で考えて正しいことを選びとれる子ども
- 心も体もすこやかな子ども
- 思いを適切に表現できる子ども

④施設・事業所の特徴的な取組

開園時間は午前 7時から午後 8 時までで、通常保育のほかに、延長保育、一時保育、障害児保育も実施しています。

◆駒岡園スローガン 「強い体をつくり、強い心を育てる」

1. 明日葉保育園駒岡園3つの取り組み
「雑巾がけ ・ なわとび ・ 歩け歩け散歩」 が子どもたちの心身の成長を育んでいます。
2. 計画的な食育活動
年齢別指導計画に食育の項目と残食量記入の項目
「皆で楽しく食べられる」 「好き、嫌いを減らして行く」 「食事のマナーを身につける」 を柱として食生活の基礎づくりに取り組んでいます。
3. 食事は給食（昼食）・午後のおやつを毎日手作り
グループ 関連会社から新鮮で多様な食材が毎日提供されています。
4. 2020年度職員保育目標 「保育を楽しむ」
子どもに寄り添い、主体的な子どもを育てる保育に取り組んでいます。
子どもの興味に合わせ、職員も楽しんで保育をする姿勢を大事にしています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和2年9月8日（契約日） ～ 令和3年4月5日（評価結果確定日）
受審回数(前回の受審時期)	2 回（平成28年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1)子ども一人ひとりを大切にした保育

指導計画は、子どもの意志、興味を育て、自主的に活動したり主体性を発揮できるように作成しています。子どもの日々の様子、興味を持ったこと、活動に取り組む姿、友だちや職員との関わりなどを保育士、調理担当職員、看護師がそれぞれの観点で、よく観察し丁寧に記録に残し、職員間で話し合いと検討を行い、次の計画に繋げています。個々の子どもの課題や配慮点はもとより、「にやりほっと」と称した子どもの微笑ましい場面、頑張っている姿、友だちや異年齢での関わりなどを、毎日取り上げ、昼礼（毎日開催）で職員間で共有しています。園のスタッフ全員で、子ども一人ひとりを理解し、向き合うことを心がけています。

2)強いからだをつくり、強い心を育てる保育

保育活動のリトミックや体操のほかに、「雑巾がけ」「なわとび」「歩け歩け散歩」を園独自の3つの取組みとして取り組んでいます。年齢に応じ、日頃から遊びに取り入れ、日常の習慣として親しんでいます。毎日行うことで、体幹やバランス、足腰が自然に鍛えられています。長い廊下を利用した雑巾がけレースや、100回以上も連続して跳べるようになった大縄跳び、長い距離を歩いての散歩などを皆で元気よく楽しんでいます。生活のリズムや体調が整えられ、

ケガ予防にもつながっています。

3)現場力に優れ、専門的知識、技術を活かした保育

園長、主任のリーダーシップのもと、クラス担任、看護師、栄養士がそれぞれ協力しながら、子どもやクラスの様子を把握しています。

看護師は、保健衛生・健康面で、専門的な立場で保育に関わり、各クラスごとに子ども一人ひとりのヒヤリハットに関する考察を行い、事故防止に向け保育士に傾向と対策を伝えています。栄養士は日々の食事提供のほか食育に関わっており、年齢ごとの保育のねらいを踏まえ、食育活動を行っています。職員会議、昼礼で子どもの様子を確認しあい、全職員で丁寧に子供に接し、育ちを見守っています。

◇改善を求められる点

1)地域との交流・地域支援

園は地域、近隣との関係も重視し、散歩時の挨拶など積極的に取り組んでいます。子育て支援サービスについては、一時保育と園庭開放を行っていますが、利用者がまだ少ない状況です。子どもと地域との交流を広げるための地域への働きかけを、積極的に行うことが期待されます。地域の中学校教育などへの協力やボランティア受け入れ等に、具体的な働きかけが期待されます。

関係機関・団体との連携強化、地域住民との交流活動などを通じて、地域の具体的な福祉ニーズを把握し育児支援活動等をされることが期待されます。

2)人材確保と保護者への説明

課題の人員の補充が出来ていなく、保護者から保育士特に常勤者不足の不安があります。人材の確保は本社が中心になって行っていますが、産休・育休や傷病休暇等の職員の補充ができていません。家賃補助制度や社宅借り上げ制度などによる効果的な福祉人材確保（採用活動等）を工夫するとともに保護者への説明が期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

客観的に自園を見ることができました。

子どもの笑顔がいっぱいの保育園にするためにどのようにしていったら良いのか、足りない部分が明確になりました。

今後は地域交流について考えます。

そして引き続き、今子どもにとって何が必要かを考え寄り添う保育をしていきます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり